

第2節 自衛隊員のキャリアアップ

防衛省・自衛隊に採用された時点では、誰もがプロフェッショナルな自衛隊員というわけではない。自衛隊員としてふさわしい技能や能力を備えた隊員を育成するため、部隊での教育や研修、実習など、部内外の様々な機会を通じて隊員を育成する場を設けている。自衛官や事務官などの区別、階級、勤務年数に関係なくこれらの機会を通じて誰もがプロフェッショナルな自衛隊員になれるのである。

自衛隊は、わが国の防衛をはじめとする各種任務を遂行するため、各隊員の高い知識・技能・体力や部隊の練度の維持が必要である。そしていかなる場面でもその能力を発揮できる態勢にあることが求められている。これは、各種事態における自衛隊の迅速・的確な対処を可能とすると同時に、わが国への侵略を意図する国に対し、それを思いとどまらせる抑止力としての機能を果たしている。防衛省・自衛隊において教育訓練は、このような人的な面で自衛隊の任務遂行能力を強化するために極めて重要である。このため、法令を遵守したうえで、事故防止などの安全確保に細心の注意を払いつつ、隊員の教育や部隊の訓練などを行い、精強な隊員や部隊を作り上げるとともに、即応態勢の維持・向上に努めている。

例えば、自衛官に求められる知識と技術の基礎や自衛隊の行動の基本である集団行動の基本ルールを学ぶものとして新隊員教育がある。自衛官となる者はまず初めに配属される教育隊において、団体生活を送りながら服務規律を学び、武器の扱い方といった自衛官として必要な素養までを身に付ける。これにより技術はもちろんのこと国防の重要性や自衛隊の使命についての理解を深める。

さらに在職期間全体を通じて学校や部隊などにおいて階級や職務に応じた教育が行われる。これらの段階的かつ体系的な教育により自衛官として必要な資質を養うとともに、知識および技術を身に付けることができる。また、自衛隊内で身に付けることが難しい知識などについては、必要に応じ海外留学を含め、大学、国内企業、研究所などに教育を委託し専門知識・技術をさらに高めている。部隊を構成する自衛官個々の能力を高めることは、部隊の任務遂行にとって不可欠であり、このようにして高められた個人の資質が国の安全保障に直結している。



防衛研究所で実施される安全保障戦略研究課程の様子

このように、防衛省・自衛隊が不断に人的基盤の強化を行うのは、ひとえに防衛力の中核が人であり、自衛隊員だからである。平和を守るための防衛政策を企画立案することや、より進化した装備品を運用することも、隊員がいなければ成り立たない。このためには、自衛隊員個人が希望や適性に応じてプロフェッショナルとして成長していくことが重要である。

しかし、戦後最も厳しい安全保障環境に直面するなかで、民間企業などとの人材獲得競争の激化により、優秀な人材の確保が大変厳しい状況に陥っている。優秀な人材を確保できなければ、わが国の防衛などの任務の遂行に支障が生じかねないことから、隊員の処遇改善とともに、働きがいと働きやすさを向上させ、防衛省・自衛隊を「就職したい、働き続けたい」と感じられる魅力ある職場にすることが急務となっている。

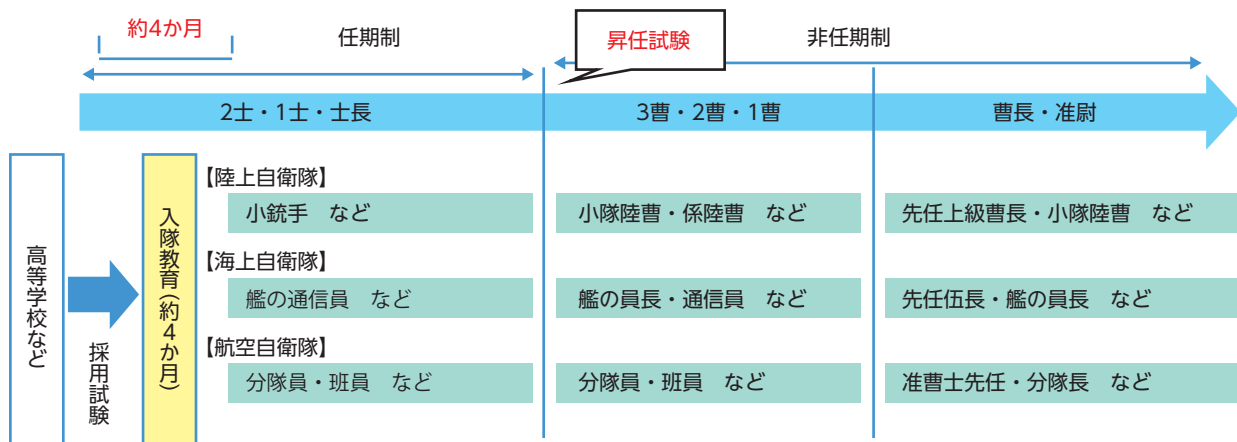
こうしたことから、防衛省・自衛隊の使命であるわが国の防衛に携わる隊員が、志を持って業務に向き合い、能力を最大限発揮できるようにするため、「人」を中心に据えた組織づくりを進めることが必要である。具体的には「更なるワークライフバランス推進のための働き方改革」と「女性職員をはじめとする多様な職員の活躍推進」に取り組まなければならない。



定年退官を迎える隊員を見送る様子

- 参照 図表V-1-2-1 (自衛隊員のキャリアプラン (曹))
参照 図表V-1-2-2 (自衛隊員のキャリアプラン (幹部))
参照 図表V-1-2-3 (自衛隊員のキャリアプラン (事務官))

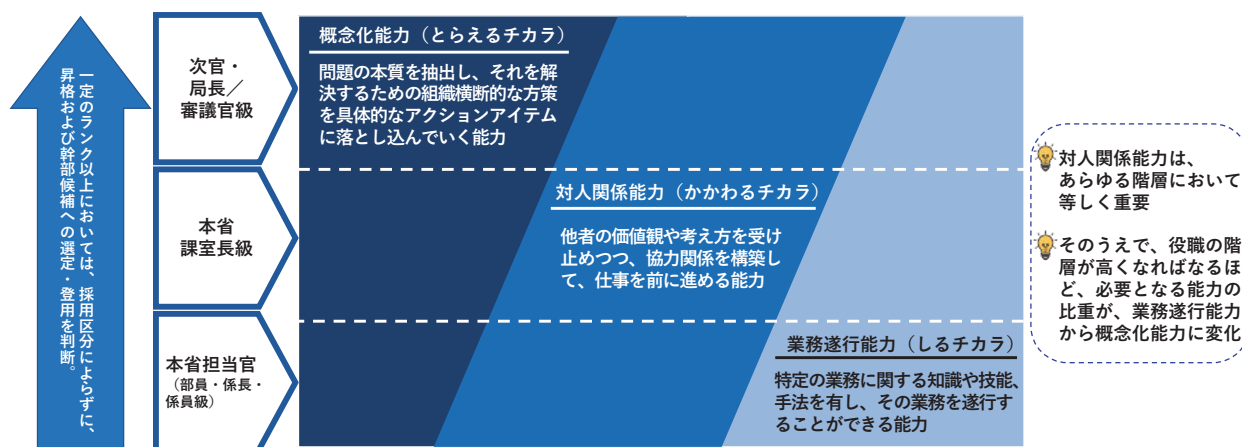
図表V-1-2-1 自衛隊員のキャリアプラン (曹)



図表V-1-2-2 自衛隊員のキャリアプラン (幹部)



図表V-1-2-3 自衛隊員のキャリアプラン（事務官）



（参考）Robert L. Katz, *SKILLS OF AN EFFECTIVE ADMINISTRATOR*; Harvard Business School Publishing Corporation, 2009

コーチングなど各種コミュニケーションの手法や考え方を、早期の段階から各階層の研修に導入し、職位や職種などを勘案して対象者を選定のうえ、職員のスキルを育成。（以下は、令和8年度の例）

- | | |
|-------------|--|
| コーチング | 問いかけにより、職員の可能性を引き出しながら、目標達成まで支援する方法。 |
| レジリエンス | ストレスに直面しても、しなやかに回復する力。良好な人間関係は、レジリエンスの基盤。 |
| ロジカル・シンキング | 感情＋論理の2ラインでコミュニケーションを図り、良好な人間関係を構築。 |
| ジョブ・クラフティング | 仕事のやりがいを高めるため、①プロセス、②人間関係、③捉え方に、一工夫を加える概念。 |



VOICE

へき地で勤務する航空自衛官

西部航空警戒管制団土佐清水通信隊 土佐清水 無線整備係長 1等空曹 しながわ かずひさ 品川 和久

私は、四国最西端の高知県土佐清水市に所在する土佐清水分屯基地で、通信電子機器の維持管理を担当しています。ここは美しい自然環境や海洋資源に恵まれています。県庁所在地の高知市や高知空港まで遠く、車で3時間かかります。当分屯基地の隊員は少数ですが、皆が協力して通信用務、各種訓練および広報業務などを遂行しています。令和7年度から、私達是对空警戒対処等手当を受給できるようになりました。私達の任務の専門性や勤務環境を考慮していただいたものと感謝しています。皆の勤務意欲も向上しました。今後もここで果たすべき役割を愚直に遂行していく所存です。



庁舎屋上からの様子



VOICE

成長の実感

潜水艦「ずいりゅう」 横須賀 攻撃要員 海士長 ^{こにし こうき} 小西 皓輝

私は、海上自衛隊に入隊して5年、潜水艦乗員になって4年が経ちました。

入隊した理由は、私が小学生の頃に起きた東日本大震災のニュースで国民の役に立つ自衛隊の姿を見て「カッコいい」と思ったからです。

最初は何も分からず、教わるばかりでした。自分は不器用で、決して失敗しない人間でもありません。そのため、これから続けていけるかという不安もありましたが、先輩方の教育のおかげで5年も続けることができました。

仲間と協力して目標を達成するために責任を果たし、役に立てたと実感したときに「自衛隊に入隊してよかった」、「ちゃんと意味があることをしている」と感じます。そういう瞬間があるからこそ、きついことがあっても踏ん張れるし、自分はこの道で成長していけると

思っています。



業務の様子

第81航空隊 岩国 飛行隊員 3等海佐 ^{かんだ ゆうすけ} 神田 祐輔

固定翼哨戒機の機長として操縦席に座ると、かつて訓練で必死に身に着けた知識・技量および機長としての判断が、今では自然にできていることに気づきます。訓練生の頃は、航空機の操縦や運航判断に必死で余裕がありませんでした。しかし、段階的に経験を積み、与えられる挑戦を1つ1つ乗り越えていくうちに航空機全体や任務全体を見渡し、最善の判断を下せるようになったと感じています。

今、部下の操縦を指導し、任務全体に責任を持つ立場になって初めて、自分が確実に成長していたのだと改めて実感しました。また、考え方や責任感など、人としても大きく成長することができました。努力が実力と

なり、任務の達成として形になる瞬間に、この仕事ならではの大きなやりがいを感じています。



業務の様子（飛行前ブリーフィング）

第4水上戦隊 大湊 司令 1等海佐 ^{きのした まさひと} 木下 正仁

入隊から約22年の時を経て、私は現在複数の護衛艦を指揮する護衛隊司令を拝命しています。これまで護衛艦の艦長を含め、海上、陸上、様々な配置を経験して幹部自衛官としての能力を高めてきました。また、米国留学を含む多様かつ専門的な教育を受けることで知識や視野を広げ、キャリアアップを果たすことができました。そして、こうした経験や知識によって成長を遂げた結果、「今」があるのだと思います。護衛隊司令の職は重い責任を伴うものですが、自らの指揮で護衛艦部隊を動かすことができるやりがいは格別です。私もまだまだ修行中の身であり歩みを止めることはできませんが、今後は自らの成長だけでなく、私の経

験や知識を語り継ぐことで後進の育成にも力を入れていこうと考えています。



護衛隊司令として着任する筆者